

～突然死の予防と応急手当～

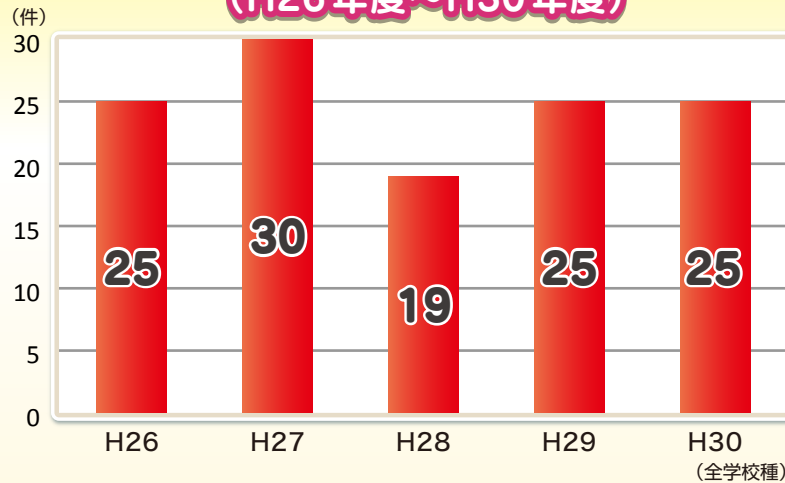
元気に楽しく過ごしていた子どもが突然倒れ、死亡する不幸な事例は、毎年20件程度発生しています(棒グラフ参照)。そのような事故は、どうしたら防げるのでしょうか。

学校、家庭、主治医等との連携・情報共有、日常生活における健康観察の徹底が大切です。

また、AED・心肺蘇生法等の正しい応急手当の方法を身に付け、速やかに対応できるようにしましょう。



死亡(突然死)事故発生件数
(H26年度～H30年度)



“心肺蘇生とAEDの使用の必要性”をテーマにDVDを作成しています!
『運命の5分間 その時あなたは - 突然死を防ぐために -』(9分51秒)
職員研修や授業等でぜひご覧ください。



You Tube 配信中!
教育委員会と小・中・高に
それぞれ配布しています!



[https://www.jpnsport.go.jp/anzen/
tabid/1765/Default.aspx](https://www.jpnsport.go.jp/anzen/tabid/1765/Default.aspx)

徹底したい! 突然死を防ぐための10カ条

- ① 学校心臓検診(健康診断)と事後措置を確実に行う
- ② 健康観察、健康相談を十分に行う
- ③ 健康教育を充実し、体調が悪いときには、無理をしない、させない
- ④ 運動時には、準備運動・整理運動を十分に行う
- ⑤ 必要に応じた検査の受診、正しい治療、生活管理、経過観察を行う
- ⑥ 学校生活管理指導表の指導区分を遵守し、それを守る
- ⑦ 自己の病態を正しく理解する、理解させる
- ⑧ 学校、家庭、主治医間で健康状態の情報を交換する
- ⑨ 救急に対する体制を整備し、充実する
- ⑩ AEDの使用法を含む心肺蘇生法を教職員と生徒全員が習得する

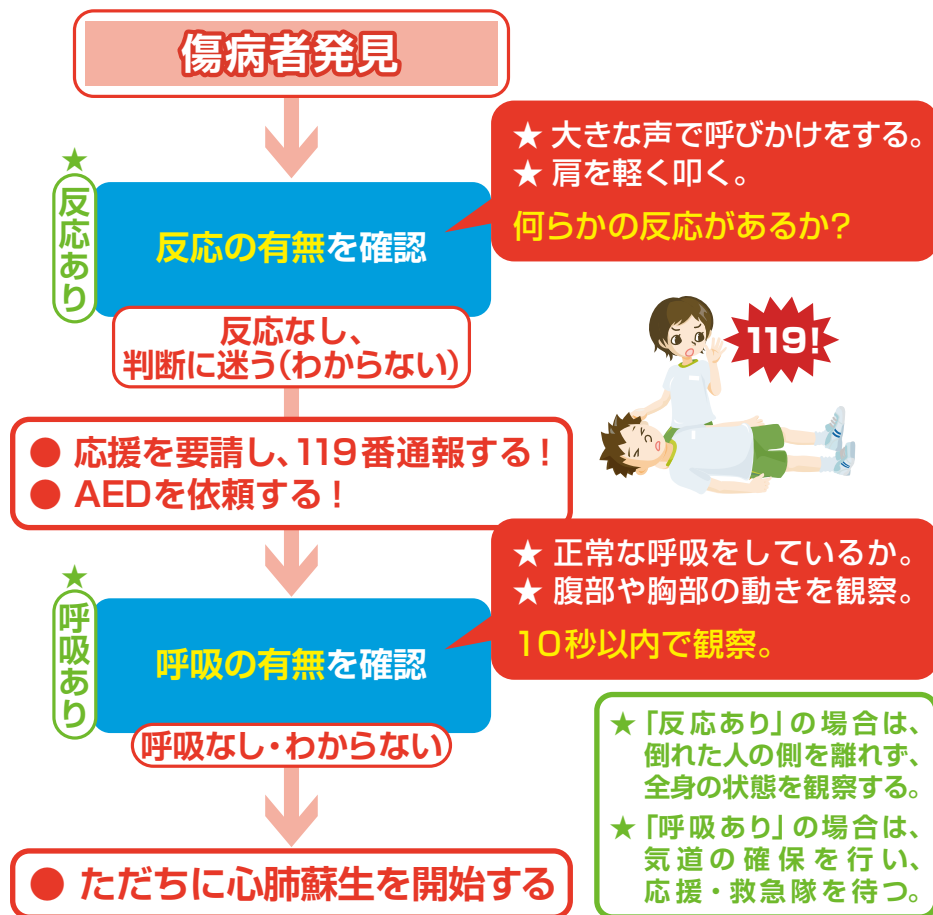
「スポーツ事故防止ハンドブック」より

心停止に対する応急手当

突然死に至る顕著な兆候である心停止状態は、学校においては運動時、校内活動時等に突発するが、この状態にある者の応急手当は、初めの2～3分間にとられる行動がその者の救命を決定するので、落ち着いて応急手当の手順を速やかに開始する。

！迅速な通報と心停止の認識

初めの2～3分間にとる行動が、その者の救命を決定する！



！迅速な心肺蘇生とAEDによる電気ショック



※水の事故（溺水）では、気道確保と人工呼吸を優先してください。

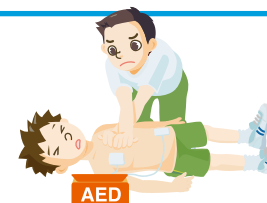
- 強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！
- すぐにAEDを装着しよう！

1 心肺蘇生

- ただちに胸骨圧迫を開始する
 - 強く（成人は少なくとも5cm、小児は胸の厚さの約1/3）
 - 速く（少なくとも100回/分）
 - 絶え間なく（中断を最少にする）
- 人工呼吸ができる場合は30：2で胸骨圧迫に人工呼吸を加える
人工呼吸ができないか、ためられる場合は胸骨圧迫のみを行う

結果的に心停止ではない人に、胸骨圧迫を行ったりAEDを使用したりしても、大きな問題は起こりません。

2 AED装着



3 心電図解析

電気ショックは必要か？

必要あり

必要なし

4 ショック1回

ショック後ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開※

5ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開※

※ 強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける。

日本蘇生協議会（JRC）と日本救急医療財団で構成するガイドライン制作合同委員会が作成した救急蘇生のためのガイドライン2010、さいたま市教育委員会作成平成24年度版体育活動時における事故対応テキスト～ASUKAモデル～を参考にしました。

「平成26年度文部科学省委託事業スポーツ事故防止対策推進事業 スポーツ事故防止ハンドブック」より